



くいま でざいけちょう
栗見出在家町魚のゆいかご
水田協議会の活動取組について

～生態系の保全～

ひがしおうみしくいまでざいけちょう
東近江市栗見出在家町
魚のゆいかご水田協議会

目次

1. 地域の概要・取組の経緯
2. 取組の概要～生態系保全活動～
3. 内外の多様な主体との連携・協働
4. 活動の広がり
5. 今後に向けて

1.地域の概要・取組の経緯



【歴史】

- ・^{くりみでざいけちょう}栗見出在家町は、今から212年前の文化3年(1806年)に、旧彦根藩によって、新田開発された村であり、琵琶湖の東部に広がる^{えちがわ}愛知川流域では、最も遅くにできた集落

- ・^{えちがわ}愛知川最下流で琵琶湖に接しており、標高が低く、琵琶湖の水面と田んぼの標高がほとんど変わらない地形



【課題】

- ・昭和40年代後半からの治水事業と、土地改良事業による用水と排水の分離によって、魚が自由に田んぼに出入りすることができなくなり、開村以来の地域独特の豊かな田園風景が失われた

【村の再生】

- ・かつての田園風景を取戻し、琵琶湖の魚とともにある暮らしとなりわいを、現代に再生しようと、平成18年度から滋賀県が推進する「魚のゆりかご水田プロジェクト」の活動に着手

【取組の経緯】

活動を「多面的機能支払交付金」の中核をなす事業として位置づけ

- ・平成19年度の活動開始当初から、農家・非農家の別なく、また、老若男女を問わず、新興住宅地を含め村をあげて取り組んでいる
- ・自治会長をトップに、集落内の関係8団体全てが参画する「栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会」を組織し、今日に至る

魚のゆりかご水田協議会（東近江市農村まるごと保全広域協定運営委員会）

項目	説明内容	備考
活動場所	滋賀県東近江市栗見出在家町	
対象農用地面積	全体 64.36ha（田 :60.17ha、畑 :4.19ha）	
対象施設	水路 13km、農道 4km	
交付金額	農地維持支払 139万円、資源向上支払（共同） 112万円 資源向上支払（長寿命化） 242万円	
活動開始年度	平成19年度～	
組織の構成員	農業者・・・65名（個人＋農事組合法人） 非農業者・・・自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、土地改良区、JA	
主な活動内容	農地維持活動	畦畔・農地法面・水路・農道法面の草刈り等 推進活動としては、地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり、活動の実施など今後の農業展開について農業者による検討会を開催している。
	資源向上（共同活動）	畦畔・溝畔の再構築、水田からの排水管理（水守当番）、水質モニタリング（透視度調査）の実施・記録管理、生きもの調査、生物多様性保全に配慮した施設の適正管理（魚道の設置）、施設等の定期的な巡回点検・清掃（ごみ拾い）、啓発・普及（地域住民との交流、学校教育等との連携）
	資源向上（長寿命化）	排水路の老朽箇所補修ならびに魚道の設置

活動の体制図

東近江市農村まると保全広域協定運営委員会

魚のゆりかご水田協議会

【役員】

代表(自治会長)、代表代行、副代表、書記、会計、地域連携担当(行政との連携)、地方創生担当(まちづくりと連携)、アドバイザー、漁業者代表、女性代表(4名)、監査、事務担当(自治会事務局)、JA

栗見
出在家町
自治会

栗見
出在家町農
事改良組合

出在家地区
土地改良区

栗見
出在家町
老人クラブ

栗見
出在家町
婦人会

栗見
出在家町
子ども会

農事組合法
人レークサ
イド出在家

JA
グリーン
近江

・草刈り
・検討会開催
・畦畔・溝畔
の再構築

・水守当番
・透視度調査

・施設の補修
(長寿命化
の取組)

・魚道の設置
・生きもの調
査

・ごみ拾い

・地域住民と
の交流(各
種団体の視
察受入れ)

・学校教育等
との連携(
環境学習)

設計・積算(受委託)

連携

連携

連携

専門的指導

支援

支援

連携

水土里
ネット
滋賀

積水化学
工業(株)

滋賀県立大学
滋賀大学
長浜バイオ大学

八日市南
高校

琵琶湖
博物館

滋賀県

東近江市

能登川北
小学校

地域の概況

【世帯数の推移】

・開村当時	42戸
・昭和時代の前半	約110戸
・昭和50年代～平成初めまで	約100戸
・現在(平成30年)	86戸(285名)

【農家数・耕地面積】

・総農家数	67戸
・総水田面積	70ha
内 地区内	60ha
地区外(大中地区干拓地)	10ha

2.取組の概要～生態系保全活動～

- ・琵琶湖の魚が田んぼへ遡上して、健やかにつつがなく産卵・成育できるように、排水路に魚道を設置
- ・生き物や琵琶湖にやさしい農業を行うなど、かつての水田環境を取り戻す生態系保全活動の取組を進めている



堰上式魚道



一筆型魚道

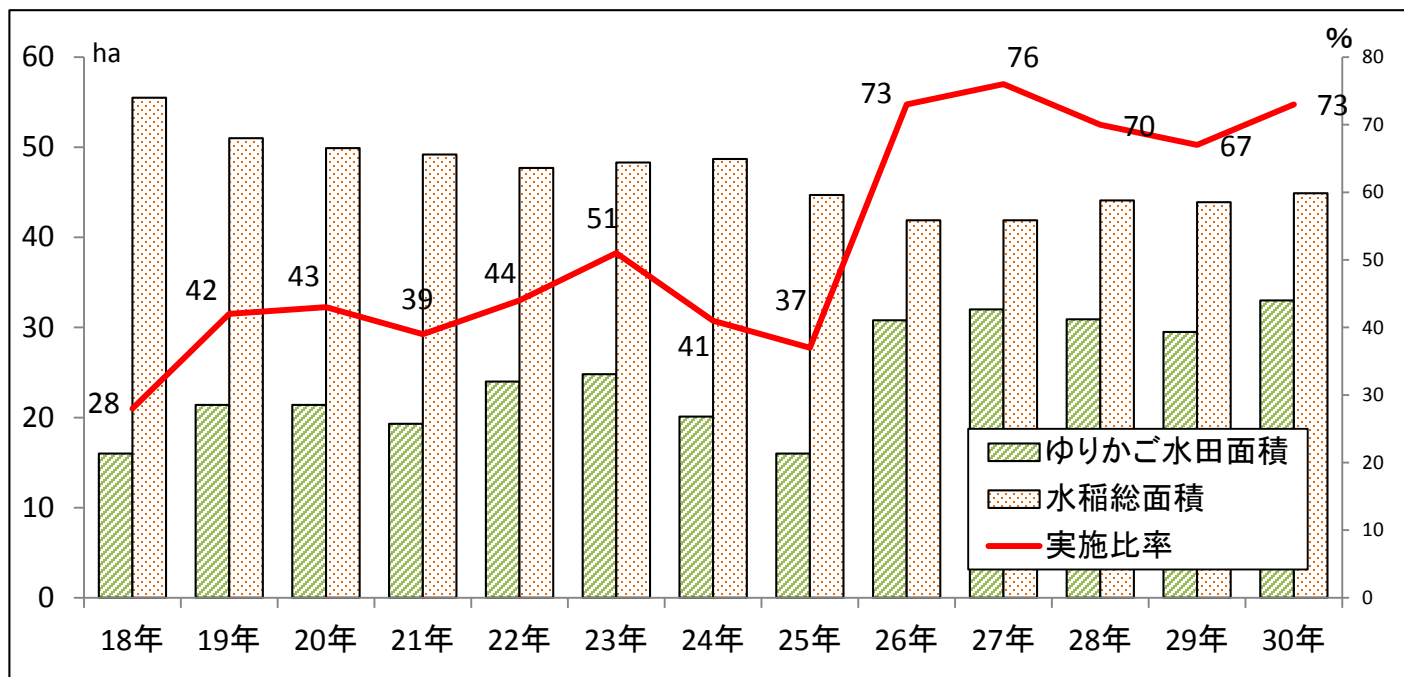
【農業の概要～環境こだわり農業の推進】

- ・化学肥料・農薬を半分以下に削減
- ・田植え直後の除草剤は、低魚毒性の物を1回だけに限定
- ・畦畔の除草剤は廃止、全反刈払い機で除草
- ・カメ虫防虫剤は、使用しない
- ・代掻き時の濁水を田んぼ1筆たりとも流さないようにし、琵琶湖の水質保全に心がける



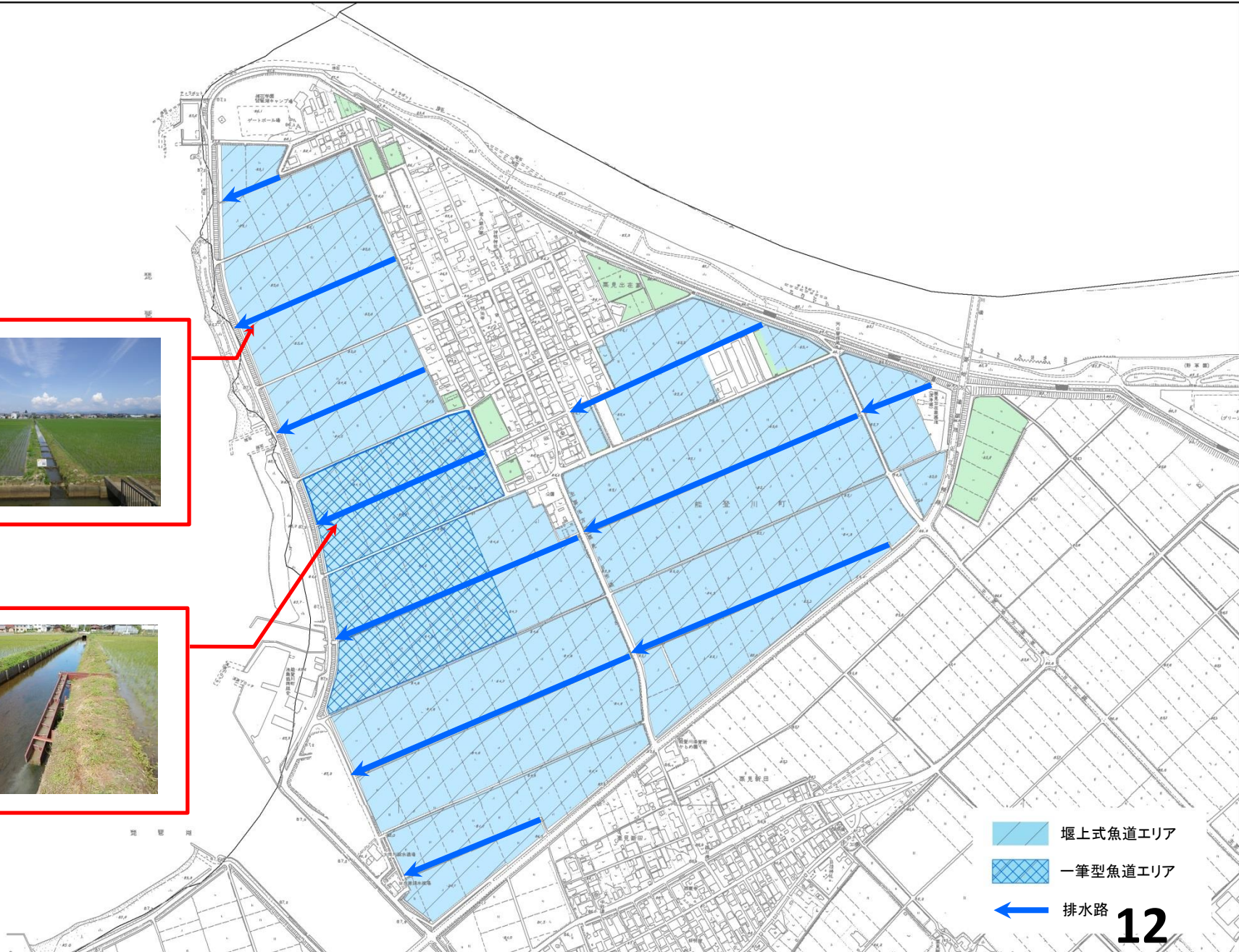
魚のゆりかご水田活動取組面積の推移

魚のゆりかご水田の取組面積は、近年約30haに達し、県下最大のレベルとなっている



魚のゆりかご水田米JA出荷量

平成25年産米 59,223kg
平成29年産米 146,790kg



- 堰上式魚道エリア
- 一筆型魚道エリア
- 排水路